

鳥取県スキー連盟 年表

スキー連盟結成までの歩み

大正7年

2. 2 3 八頭群庁 北富良一、郡家で郡立実業補修学校生徒にスキー指導（スキー3台購入）
【このころの世相】 全国で米騒動勃発、第一次世界大戦終戦、スペイン風邪大流行

大正10年

1. 2 4 岩田衛知事、真田三六視学、松岡重徳師範教諭外、鳥取連帯のスキーを借り稲葉山で滑る。
2. 5 松江経済界有志5名、松陽新聞の泰栄吉氏ら、大山で2台のスキーで初練習。6～7日には洞明院で合宿
4. 8 北大より角倉邦彦、鳥取高農教授として着任、両杖スキーを伝える。
【このころの世相】 大正9年第一回国勢調査、
体協の結成が盛んになる。大正8年鳥取市、大正9年気高郡、東伯郡、八頭郡、大正10年西伯郡
大正11年岩見郡、日野郡。当時の郡長ら、グラント建設、各種スポーツ大会に力を入れる。日英同盟破棄。
大正11年3月大山保勝会設立。会長 浅沼西伯郡長、副会長 大高村長。大山への馬車賃、宿泊料、販売阿
品の価格統一、宣伝ビラ作成などをする。
赤松～大山間 農馬（馬方村）片道上り3円 下り2円往復4円50銭 夜間1円増し。
人夫片道2円50銭 往復3円50銭

大正11年

1. 2 1 宮沢大神山神社宮司、郷里の信州飯山より長男の巖氏を講師として呼び、箕蚊屋高等小学校校庭に於いて、
第1回大山スキー講習会を開催。教員、生徒にスキー指導（～28日）
1. 2 3 鳥取県、鳥取市体協主催大山スキー練習会を、尾高の百塚原、赤松、大山に於いて開催。最終日には岩田知
事も出席し、スキー大会開催。参加者役70名スキー17台1本杖使用（～29日）
1. 2 5 鳥取農学生8名、角倉教授引率のもと、豪円山でスキー練習。（両杖使用）
1. 2 7 島根県杵築中学 田中校長、伊藤教諭、人夫1名同伴、大山山頂へスキーで登る。
1. 京阪神方面から、大山山頂へ初めてのスキーヤー（京都大丸の職員）来山。
2. 3 鳥取市体協主催第一回スキー大会を浜坂で開催。県庁職員、体協職員、師範生ら参加。観覧車多数。
その当時のスキー価格は20円。相当高価であった。（3～4日）
2. 1 1 松田哲、米山秀一郎、吹雪の中の前で遭難、スキーを焚いて一夜を明かす。
3. 1 2. 1 6大山スキークラブ発会式挙行。会場 米子啓成小学校 発起人 友松文雄、松田哲

大正12年

1. 2 8 大山スキークラブ主催 山陰スキー大会を博労座及び赤松で開催。
会長 松田哲
種目800m長距離走（～29日）50m平地滑走・100m滑降競争・200m登降競争。
長距離走及び総合得点者に優勝旗授与。
1. 3 1 阿毘縁村スキー講習会開催（～3日）
2. 3 島根県内海警察部長、福岡視学ら一行5名大山でスキー練習（～4日）
2. 4 大阪六甲スキークラブ吉田春日ら7名、大山を訪れ、伊吹山以上と推奨。以後、京阪神地方で脚光を浴びる。
2. 1 0 第1回全日本スキー選手権大会を小樽で開催。
2. 1 1 鳥取市体協主催第2回山陰ski大会を浜坂で開催女学生、小学生ら100名参加。
1 2. 1 5山陰日々新聞に「冬の履き物スキーの話」掲載（～20日）大山スキークラブ。
スキーの歴史・スキーの種類と作り方・スキーの趣味・使用法と乗り方。
スキーの価格 オーストリア式 10円～16円
ノルーウェー式 10円50銭～12円50銭
1本杖50銭から1円50銭 2本杖2円30銭～4円
1 2. 2 6大山スキー場に教習所開設。講師 宮沢巖 助教 松田哲 今井太郎
会費1期間 50銭 2期以上70銭 宿料 1日 1円50銭
教習 第1回 26日～30日 第2回 大正13年1月2日～8日
第3回 1月・2月中の毎週土・日

大正13年

1. 4 朝日松江通信部、山陰スキークラブ主催スキー講習会（大正12年11月24日結成）を大山で開催
講師 笹川幸平（新潟県関山温泉スキー場主任）
講習会発会式に続いて、山陰スキークラブ発会式が博労座で行われ笹川氏、松田氏の祝辞有り。
参加者 鳥取県20名
島根県 松商生数名・渡部署長、宮井警部の引率する警察官10余名・松井大尉・山陰クの森田、

独人講師ブラーゲ氏・石洲大森町の山崎ら 40 名 講習内容 直滑降 制動回転

1. 10 鳥取高女では、スキー4 台で毎週日曜日、浜坂で有志によるスキー練習を始めた。
【第1 回冬季オリンピック開催（シャモニー）】
鳥取・米子公設グラント完成
- 1 2. 松高の清水吉之助助教授ら、上石見の高瀬高原（野原）でスキーを試みる。
神戸の田中、寺島ら 30 名が来山。大山がスキー場として阪神方面に知られるようになった。

大正 14 年

1. 24 野原で山陰スキークラブ、松商スキー部のスキー講習会開催。（～25 日）
講師 清水吉之助
この講習会以後、隔週の土・日曜日に講習会が開催されるようになった。
2. 12 松江連隊、大山に耐寒行軍。スキー練習、競技会を行う。（～25 日）
【全日本スキー連盟創立】
2. 14 大山スキークラブ主催スキー講習会を大山で開催。講師 松田 清水（～25 日）
3. 7 秩父宮殿下、船上山よりスキー滑降。随行 一の宮書記官、前田事務官、上村東伯郡長、西村外、殿下の御高德を欽募するため、船上山スキー会を結成。1 2. 2 4 山陰日々新聞に、初めてスキー用品の広告掲載。（米子白楊堂運動具店）
- 1 2. 2 5 木下自転車部、大山から赤松まで常時運転開始。

大正 15 年

1. 24 国鉄がスキー場だよりを始める。毎週水・土の 2 回（京阪神地区）米子運輸事務所から神戸鉄道局へ上石見駅から鳥取・松江駅へ。
1. 26 鳥取・松江駅に積雪状況の掲示始まる。小口回数券、発売される。
1. 26 高瀬高原スキー場整備のため、後援会発足。（岩見村、神郷夢 r）
2. 1 石山虎雄砲兵大尉（財団法人奨健会派遣）のスキー練習会、大山で開催。県庁職員、教員、警察官参加。（1 日から 3 日）
2. 5 石山大尉、スキーで船上山踏破。
3. 20 大山スキークラブ主催第 5 回山陰スキー選手権大会、豪円山で開催。大会の体裁運営が整う。（20～21 日）
種目 2 km・4 km・10 km リレー 明間青年団、リレーに優勝。
【大正天皇崩御。NHK 誕生。郡家に除し師範学校開設。松江・鳥取連隊、境港より渡満。】
- 1 2. 16 米子町小学校教員団有志の発足により、米子スキー同志会結成。
- 1 2. 26 米子町糺山で啓成小・角盤高小の教員生徒がスキーを始める。

昭和 2 年

1. 6 スキー場行き汽車賃、2 割引となる。大山の旅館満員。
1. 11 米子運輸事務所、スキー場案内記を各中学校に配布。
1. 12 関西スキー k あいの名手、城崎喜一郎、吉田桜州、大山山頂よりスキー場まで滑降。
2. 13 松高主催大毎松江通信部後援第 1 回山陰スキー大会を大山で開催。三瓶スキークラブ、松江体協、倉農、大山、明間、蒜山などから役 100 名参加。
種目 10 km・8 km リレー 優勝 10 km 倉農 宮本忠博 リレー明間クラブ
10 km コース 博労座～南光河原～洞明院～横手道～桝水～1 本松から博労座～上の原に登行・斜度約 15 度を降りて決勝点に入る。
【リンドバーク、大西洋横断飛行に成功。弓浜新聞社主催第 1 回中学校模試に、二百数十名受験。

昭和 3 年

2. 12 松商主催第 2 回スキー大会を大山で開催。参加者 100 余名。
明間クラブ 豪円山クラブ 米子中学 真陵ク 優勝の明間クラブに新聞社寄贈優勝旗授与。
初めてジャンプ競技が行われた。
種目 小学校 400 m・ジャンプ・2 km・5 km・8 km・20 km リレー
【スキー映画撮影（フィルム 2400 尺）村岡・長谷川・荻野・谷口・松本 金居商店で試写会する。】
- 1 1. 米子スベロー会設立。会場 義方校 松田哲・三好通弦・香川完市・中原年男外 20 名参集。スキーの宣伝をする。
【伯備線全線開通 摂氏 C 使用始まる】

昭和 4 年

1. 2 鳥取県主催スキー講習会を 3 カ所で開催。（学務課・社会課）那伎・三朝・野原 講師 村岡時夫 坂口義明
1. 5 大山スキー協会主催スキー練習会を大山で開催。講師 宮本忠博 松田哲 松井氏
2. 10 鳥取スキークラブ主催スキー好手スカイを浜坂で開催。講師 宮本忠博 松田哲 松井氏
3. 11 鳥取二中全校スキー大会を浜坂で開催。

【ノルウェーのヘルセット中尉ら来日。ツエッペリン来日】

4. 2 北大より平塚直秀、鳥取高農教授として着任。スキーの普及並びにスキー場の開発に貢献。
昭和5年

1. 11 県連合青年団、日野郡体協主催のスキー講習会を野原スキー場で開催 講師 村岡時夫 松田 哲
1. 18 中国6県（兵庫を含む）営林署職員スキー講習会を大山で開催。（～2月3日）
1. 30 鳥取郵便局にスキー隊を組織し、雪中の通信線の保守管理に当たる。（スキー5台）
2. 8 東伯郡体協主催三朝温泉スキー大会を片柴スキー場開催。（～10日）
2. 松商主催大毎松江通信部後援第4回山陰スキー大会を大山で開催。
3. 1 鳥取スキークラブ、鳥取山の会会員20余名、扇の山初縦走。

【オーストリアのシュナイダー来日しアールベルグスキーの指導をする】

3. 16 女子師範、八頭高女、構内の洲ループ70mのスキー場を造り、60台のスキーを設置。

【鳥取県スキー連盟創立】

12. 20 鳥取県スキー連盟創立総会を鳥取市ロゴスで行う。
出席者 40名 会長 角倉邦彦 副会長 平塚直秀
12. 30 大阪営林署管内職員スキー講習会を大山で開催。受講生約50名。
講師 笹川英三郎（美津濃運動具店）

昭和6年

1. 3 県スキー連盟、「スキーの鳥取県」発行。
1. 11 松本栄治（県連幹事）池ノ平におけるシュナイダー講習会に参加。
2. 6 若桜山岳会会員君野秀三外4名、氷ノ山走破。
2. 15 米子市スキークラブ、博労座で発会式を行う。 会長 友松文雄 会員100余名。
2. 17 県スキー連盟主催第1回三朝スキー大会を三朝スキー場で開催。優勝した大山クラブに藤岡県知事杯を授与。
2. 22 穂の見山スキークラブ主催近県スキー大会を穂の見山スキー場で開催。
8. 鳥取県スキー連盟、全日本スキー連盟に加盟。
9. 満州事変勃発。不景気高まる。

昭和7年

1. 17 「溝口駅がスキーを持つ」というタイトルで、桧水原スキー場の宣伝を新聞に掲載。

【1月上海事変起こる。 5月5. 15事件起こる】

2. 28 県スキー連盟主催第2回スキー大会兼第4回近県スキー大会及び県体協冬季第1回スキー大会を穂の見山スキー場で開催。 館知事 出席 米子山岳スキークラブ結成。（前進は明道山岳会）

昭和8年

1. 28 鳥取、島根両県スキー連盟主催第7回明治神宮スキー競技大会、第11回全日本スキー選手権大会山陰予選を兼ねた第10回山陰スキー選手権大会を大山で開催。
2. 15 文部省主催第1回指導者講習会を管平で開催。
県より派遣 安藤光潔 小川清 葉狩万寿治 引率田中武雄体育主事。

【2月 日本、国連脱退。 鳥取県の養蚕、全盛期】

4. 16 全日本サンドスキー大会を浜坂砂丘で開催。約6,000名の観衆集まる。

昭和9年

1. 12 大阪鉄道局主催スキー講習会を大山で開催。講師 藤木九三
1. 20 第11回山陰スキー選手権大会を大山で開催。 全日本派遣選手決定 城代重吉（距離）松江洋一（飛躍）
1. 文部省主催第2回指導者講習会を管平で開催。県より派遣 小倉林一 福田好一 有田実。
2. 2 日の丸バス会社が砂丘スキー場へ定期運行を開始。砂丘への除雪も行う。
2. 2 鳥取連帯の留守舞台が、満州を忍んで浜坂まで雪中行軍。初のスキー隊も参加。
兵の装備—かんじき隊 ふんごみ隊 わらぐつ隊 ゴム長隊
2. 14 冬の大地獄谷走破。村岡、高橋。江島。
2. 15 オリンピック第1次選抜に出場するため平塚氏の談話、新聞に掲載。
2. 18 米子スキークラブ、大山で奇抜な競技やスキー祭りを行う。

【竹節作太、大山の帰途、氷ノ山を尋ねる。 9月室戸台風による風水害、被害甚大。】

昭和10年

1. 1 「日本海時代」にスキーの項を設ける。
1. 15 第12回山陰スキー選手権大会を大山で開催。参加28団体 延べ400名（～27日）

【2. 10 映画「白銀の王者」の撮影一行来山。 2. 9から約20日間 大山 新興キネマ監督】

【1. 28～10日間 氷ノ山 内田吐夢 小杉勇 島耕二 市川春代ら出演。大山の高橋、平井ら代役で滑降。】

2. 2 米子スベロー会の提唱で、大山の国立公園指定内定を記念し、第1回大山国立公園記念スキー大会を開催。

2. 13 スキー警察隊の講習を大山で開催。

【全国的に雪が少なく、関西方面から大山にスキーヤーが集中。6畳の部屋に24名も宿泊した事もある。】

昭和11年

1. 大山でスキー学校を開設。

オリンピック選手、栗谷川平五郎（ディスタン）、伊黒正次（ジャンプ）来山。

2. 1 大山、国立公園に指定される。第2回大山国立公園記念スキー大会を開催。

2. 鳥取スキークラブ結成。

【2. 26事件起こる。鳥取放送局開局。第4回オリンピック（ガルミッシュ）より滑降、回転が正式種目に採用される。】

昭和12年

1. 6 文部省主催第3回指導者講習会を管平で開催。県より派遣 西村実義 大谷武男（～15日）

1. 24 第14回山陰スキー選手権大会を大山で開催。（～25日）

兜山登（米工）、原田隆一（日野農）、矢野泰政（大山）、福田好一（鹿野）、行天（丸亀）ら活躍。

2. 20 第15回全日本スキー選手権大会を伊吹山で開催。兜山登 滑降1位 総合4位

2. 21 大阪スキー連盟会員、甲佐大阪体育主事ら25名扇の山ツアーを行う。

【7月 日華事変起こる。三柳飛行場完成】

昭和13年

1. 14 大山国立公園のスキーコースに、指導標の増設。

1. 23 第15回山陰スキー選手権大会を大山で開催。参加14団体 延270余名

国際オリンピック候補選手の兜山登も帰郷、参加する。

耐久一島越栄二（鳥取高農）継走一大山スキークラブに優勝杯授与。

2. 11 鳥取砂丘の大衆スキー大会に、約2,000名参加。

2. 20 米子スベロー会の会員15名、猛吹雪の中大山を横断。コース 大川寺横手道～日光小学校～溝口町

2. 20 日野体協、日野郡スキークラブ、溝口町スキークラブ共済のスキー大会を桝水原で開催。

【2月 愛国行進曲発表。作詞 森川行雄】

【岡山スキークラブの後藤、（境町）中ノ原に初めて山小屋を建てる。】

【県が豪円山、中ノ原の避難小屋、食堂を建設。】

【栗谷川平五郎、関戸力 両スキー選手大山に来山】

昭和14年

1. 7 フランス人オシュコール氏外1名、猛吹雪について、初の大山一周コースを踏破。

2. 11 鳥取県スキー総動員更新を浜坂で開催。坦野 覚（複合）、安達五郎（ジャンプ）大山に来山。

伊黒正次の設計で豪円山30m級シャンツェ建設。国鉄山の家、建設省の手で建設。

【米が配給制となる。新聞が1県1紙となる。】

技術章検定（1・2級）制定

12. 21 第1回指導員検定講習会を五色温泉で開催。11名の準塩津院誕生。

昭和15年

1. 14 中等学校スキー大会を大山で開催。

1. スキー練習会を大山で開催。講師 各務良平 小竹 実

1. スキー練習会を大山で開催。講師 西村一良 馬場忠三郎

【11月 紀元2600年式典挙行（文部省主催）】

12. 23 全日本スキー連盟より、スキーヤーに自粛と規律、統制について要望有り。

昭和16年

2. 7 第11回明治神宮スキー大会を赤倉で開催。

府県対抗6位 山崎瑛子 大杖君子 小山八重子 滑降6位 小山八重子

2. 8 特別指導員制度制定

3 スキー連盟の技術検定講習会を大山で開催。主任検定員 高橋次郎、安藤光潔、山崎瑛子が公認指導員に認定される。

【4月 国民学校令発布】

【12. 8太平洋戦争起こる】

昭和17年

4月 全本スキー連盟を解散、大日本体育会スキー部となる。

米機、初めて日本を空襲。

12. 20 「国防スキー」旺文社より出版

昭和18年

2. 国体（明治神宮大会）最後の年となる。

- 4 中央では戦技スキー審議委員会発足。スキーの規格は軍と同じく1.85mと1.95mの2種類に統制。用具も一切、規格化、配給制となり、入手困難となる。

【9月鳥取大地震。学徒動員が始まる】

昭和19年

2. 12 大山スキー祭は、大東亜記念完遂祈念スキー祭。第10回国立公園記念スキー大会は、鍛錬競技大会と名称を変更。
2. 13 明治神宮国民錬成冬季大会米子地区大会を大山で開催。

【「決戦非常処置」を発表】

昭和20年

1. 国防スキー錬成大会を大山で開催。非常時のため第11回大山国立公園記念スキー大会を中止。米子スベロー会を再発足。

【4月23日境港で火薬運搬船玉栄丸爆発】

【8月15日 第2次世界大戦終わる】

11. 6 「雪滑指導の参考」文部省より発刊。
12. 全日本スキー連盟再発足。

昭和21年

1. 4 第1回大山リーゼンスラローム大会開催
1. 米子スベロー会が中断していた第12回大山国立公園記念スキー大会県中国5県スキー大会を開催。全国でも異例の復活ぶりを示した。

【1月 天皇の人間宣言。公職追放令施行。】

- 美保航空隊員三柳養成所にあった訓練用スキー数百台が、民間に払い下げられた。
京都東本願寺大谷さん一家、スキーに大山へ来山。
2. 社会体育スキー講習会を横手、小千谷で開催。
 3. スキー指導者講習会を野沢温泉で開催。

昭和22年

1. 5 佐野勇一氏らが中心となり、全国のスキー場に先駆けて、大山スキー祭を開催。神事・宝探し・狐狩り・仮装行列（サンタクロース・弥次喜多・関取・嫁入り道中）などを行う。ニュース映画社カメラマン多数詰めかける。
1. 第1回大山ジャンプ大会を開催。
第1回県体兼第2回国体予選会を大山で開催。
1. 9 鳥取市スキー協会、再発足。
1. 13～14 第1回西日本スキー大会（第1回大山ダウンヒルスキー大会）を大山で開催。現大山アルペン。
1. 13 中国5県スキー連盟発足。事務所を米子市に置く。
1. 14 占領軍（英連邦山口駐屯部隊）大山へスキーに来山。スキー連盟役員が指導に当たる。
2. 1 米沢村美用に迫原スキー場開設。米沢山岳スキークラブ主催のスキー講習会を開催。
2. 4 西伯教育委員会箕蚊屋支部主催第8回西伯学童スキー大会を大山で開催。
2. 11 国立公園協会主催学童スキー大会を大山で開催。指導員検定講習・技術章検定制度復活。

【学制改革。社会党第1党となる。】

昭和23年

1. 5 大山スキー祭を開催。神事・宝探し・狐狩り・仮装行列（供米俵・獅子舞・サンタクロース・巡査と泥棒・葬式・裸踊り・新婚旅行）などを行う。
1. 6 スキー講習を大山で開催。（会費20円）
1. 19 西伯スキー協会主催第2回大山ジャンプ大会を豪円山シャンツェで開催。
2. 2 猪谷六合雄、千春親子、大山に来山。
2. 5 第1回鳥取県・京都府対抗スキー大会を大山で開催。猪谷親子の模範滑走あり（前走 千春）
- 2 日本指導員検定制度復活。 兜山 登、橋本博道、隅田邦男、小林哲男、田淵芳三、合格。
3. 11 第3回野沢国体。 山崎瑛子 回転3位。

【フジヤマのトビウオ（古橋広之進800m自由形に世界新記録樹立）

昭和24年

- 2月5日～11日 関西稲門山岳会、大山でスキー合宿。
早大主将 橋本茂生、仙崎 武両氏、国体派遣県選手をコーチ。
2. 13 日光中・小学校スキー大会を日光上の原スキー場で開催。
占領軍・志賀高原にリフトを架設。
3. 3 第4回札幌国体、 新複合3位 山崎瑛子 少年組5位 岡崎優（三朝）

全日本選抜スキー大会 回転 優勝 山崎瑛子

【11月 湯川博士、ノーベル物理学賞を受賞】

昭和25年

1. 6 スベロー会主催第2回スキー講習会を大山で開催。(～8日)
基礎スキー教科書発刊

3. 1 第5回米沢国体、滑降、回転とも2位 山崎瑛子

【4月 県産業観光米子大博覧会を後藤グラウンド(現湊山球場)で開催・千円札 出現】

昭和26年

1. 4 大山スキー前夜祭を開催。
1. 5 大山スキー祭を開催。仮装行列やその他を披露。博労座に夜間照明施設、設置。
2. 11～12 第5回西日本スキー大会を大山で開催。高松宮殿下、大山にお成り。高松宮杯を賜る。
随行 小川勝次、鳥取県優勝
2. 13 第6回赤倉国体、滑降 優勝 回転2位 山崎瑛子

【9月 日米安保条約に調印。第1回世界スキー指導者会議発足(ツールス)】

昭和27年

1. 4 大山スキー前夜祭を開催。
1. 5 大山スキー祭を開催。仮装行列やその他を披露。
2. 第7回富良野国体 滑降 4位 回転7位 山崎瑛子
第1回鳥取県高等学校スキー選手権大会を氷ノ山で開催。
指導員検定員制度制定。

【4月 鳥取大火】

昭和28年

1. 23 日本海新聞にスキー記事掲載。(～24日)「スキー競技の見方について」
1. 23 第7回高松宮賜杯西日本スキー大会を大山で開催。鳥取県優勝。
新複合が大回転となる。競技成績・講評が初めて掲載される。主催 鳥取県。
大山観光協会会長 林原氏 豪円山緩斜面にTバーリフト架設。

【2月 NHK テレビ放送開始。】

3. 1 1市3郡(鳥取市・岩美郡・八頭郡・気高郡体協)スキー大会を長砂スキー場(若桜町)で開催。
- 12.12 FIS 選手派遣募金「スキー映画の夕べ」を米子商工会議所で開催。
募金バッジ 普通会員証 100円 特別会員証 500円 入場券 一般50円 学生 30円
映画「昭和27年国際スキー選手権大会・同オリンピックスキー競技・雪の楽園・雪に描く」

昭和29年

2. 13 第8回高松宮賜杯西日本スキー大会を大山で開催。鳥取県優勝。高校対抗優勝 米子西高。
フランスからピエール・ギョーとアンリオレが来日。全国10カ所でスキーを指導する。

【3月 ラジオ山陰放送開始。 4月 三朝東郷湖、県立公園に指定。】

昭和30年

1. 5 第10回大山スキー祭を開催。
3. 清宮、大山にお成り。

【神武景気】

昭和31年

- 中ノ原第一リフト、中国地方でトップを切って架設。
2. 第7回冬季オリンピック大会(コルチナ・ダンペッツォ)で、猪谷千春がスラロームで銀メダル。
佐野勇一・田中武雄両氏、鳥取県体育功労賞受賞。

【日本、国連に加盟】

昭和32年

1. 5 一般スキー講習会を大山で開催。バッジテストも行う。
1. 24 高松宮殿下、中ノ原・元谷・桧水スキー場でスキーを楽しまれる。
中ノ原第2リフト架設。桧水高原ホテル、鏡成国民宿舎完成のほか、山の家・各旅館・宿坊など、相次いで改増築される。
トニーザイラー来日。準指導員制度発足。織田収氏鳥取県体育功労賞を受賞。

【市営鳥取飛行場開設】

2. 4 指導員検定会(神鍋)、受験者無し。
2. 10 米子市民子供スキー大会を大山で開催。
3. 2 大山子供スキー大会開催。

昭和33年

1. 1 1 一般スキー講習会を大山で開催。バジテストも行う。(～13日)
オーストリアより、ルディ・マツを招待。

【1万円札 発行】

田中武雄、体育功労文部大臣表彰受賞。

昭和34年

3. 1 8 県連定期大会で役員改選。
会長 織田収、 副会長 佐野勇一 理事長 吉田寛二郎 渡瀬辰夫 理事 31名選出。
SAJ スキーテスト発刊。

【4月 皇太子ご結婚。家庭電化の時代に入る。】

【伊勢湾台風被害甚大。岩戸景気】

【9月 ソ連のルナ2号、月面着陸】

昭和35年

【1月 新安保条約調印。テロ続発。所得倍増論】

1. 1 0 鳥取市教育委員会主催「市民のスキーを楽しむ会」、氷ノ山スキー場で開催。
1. 1 6 第14回県体兼第15回国体選考会を、桧水スキー場で開催。
1. 2 4 第2回「市民のスキーを楽しむ会」、氷ノ山スキー場で開催。
1. 3 0 第2回大山アルペンスキー大会開催。

昭和36年

1. 5 日野郡少年スキー大会を桧水スキー場で開催。
1. 1 4 一般スキー講習会を大山で開催。バジテストも行う。(～16日)
1. 2 0 第15回県体兼第16回国体選考会を、氷ノ山スキー場で開催。
2. 1 2 第3回「市民のスキーを楽しむ会」、氷ノ山スキー場で開催。(～22日)
2. 2 6 高松宮殿下、兵庫県鉢伏山よりスキー行。山崎瑛子・大杖正彦・美保子・若桜より登頂。氷ノ山千本杉でお迎えする。殿下一行は戸倉への滑降となる。
2. スキーリフト増設 中の原 2基 上の原 1基
3. 3 扇の山開発の一環として、扇の山スキーツアー開催(～4日)
主催 県連、後援 国府町・岩美町 協賛 県体協・県観光連盟 責任者 安藤光潔
コース 国府町上地から扇の山～河合谷高原～鳥越～岩井温泉
スキー大学制度制定
※安藤光潔氏鳥取県体育功労賞受賞。

【10月 参院選に特急まつかぜ運行】

- 1 1. 9 役員改選 理事長 石原健次

昭和37年

スキーリフト増設 中の原 1基 豪円山 3基

1. 1 9 第16回県体兼第17回国体選考会を、桧水スキー場で開催。
2. 3 第28回大山国立公園記念スキー大会を桧水スキー場で開催。(～5日)
世界選手権大会(フランス・シャモニー) 大回転34位 大杖美保子
※ 大山観光会館建設。※第6回世界指導者会議(イタリア・モンテ・モンドーネ)にSAJより4名参加。

【9月 「鳥取青年の家」設置】

- 1 1. 1 0 県連規約改正

昭和38年

【38豪雪】1月 豪雪で年明け

1. 1 9 第17回県体兼第18回国体選考会を、桧水スキー場で開催。(～21日)
1. 2 6 一般スキー講習会を大山で開催。バジテストも行う。
2. 4 日野郡子供スキー大会を、桧水スキー場で開催。
※ 指導員検定会を大山で開催。受験者90名中、合格者1名(四方氏)
※ クルッケンハウザー教授(オーストリア)一行来日
※ スキーリフト増設 上の原・豪円山 各1基

【大山有料道路開通(12.2km 2車線)】

昭和39年

1. 1 9 第13回全校高校(福島・猪苗代町)
大回転1位 回転4位 大杖美保子 (米子西) 大回転5位 大杖正彦(米工)
3. 7 扇の山スキーツアー開設。

コース 湯村温泉～海上～扇の山～河合谷高原～鳥越～岩井温泉

※ 第1回SAJ デモンストラーター選考会を、八方スキー場で開催。

5. 30 役員改選。 副会長 安藤光潔 理事長 野坂勉 理事 27 名選出

※ 10月30日東京オリンピック開催。

11. 11 第1回SAJ パトロール検定会を赤倉スキー場で開催。合格者 27 名（鳥取県 1 名 松田 信）

昭和40年

2. 6 第1回高松宮賜杯大山アルペンスキー大会開催。（6回続いた西日本アルペンスキー大会を、大山アルペン大山アルペンスキー大会と改称し第1回とする。）

※ 第14回全校高校（長野 山ノ内町）回転1位 大回転2位 大杖正彦（米工）

2. 19 第12回西日本医科学生スキー大会を大山で開催。主管 鳥大医学部（～22日）

9. 15 大山国体誘致を目指し、調査委員会を設置。

昭和41年

1. 15 第20回県体兼第21回国体選考会を氷ノ山スキー場で開催。（～17日）

1. 24～26 第8回高松宮賜杯西日本アルペンスキー大会を大山で開催。高松宮殿下、ご臨席。中の原、元谷、榊水原でスキーをお楽しみになる。

2. 5 登録会員スキー講習会を大山で開催。

2. 7 第15回全国高校（秋田・花輪町） 大回転6位 大杖正彦（米工）9位 小山了子（米商）

2. 20 第21回国体（旭川・神居山） 大回転5位 大杖美保子 19位 小山了子 今国体より電気計時使用

1966年チリ、ポルティョで開催された世界選手権に派遣される出発前の羽田空港にて。



前列中央部に並ぶのが派遣された選手で、右から片桐美雪さん、猪谷素子さんと母の美保子(旧姓:大杖)。女子アルペンスキー界の第一人者の山崎瑛子(美保子の叔母)が母の隣に、その後列に大杖君子(美保子の母で瑛子の妹)猪谷千春さんの母上の貞子さん、三浦朋子さん(三浦雄一郎夫人)など当時の女性アスリートを支援する【レディーススキークラブ】の皆様との記念写真。

【5月 鳥取～米子間、急行バス運行】

6. 11 役員改選 理事長 廣江 弼

昭和42年

1. 9 第1回鳥取県高校総体スキー大会を大山で開催。

1. 19 第40回全日本学生選手権大会（花刈山）2部 回転1位 滑降2位 大杖正彦（慶大）

1. 28 指導員投句別研究会（天狗山）にクルッケンハウザー教授（オーストリア）を特別講師として招致。大山にも来山。

2. 5 織田会長・入江大山町長、国体誘致とジャンプ台建設について石破知事に陳情。

2. 12 第16回全校高校（天狗山） 大回転2位 大杖二郎（米北）

2. 17 第22回国体（青森） 大回転1位 大杖美保子（米西）

3. 1 第45回全日本選手権（八方）滑降1位 大杖美保子

4. 18 第27回国体誘致について、西日本各府県に協力要請。

5. 27 SAJ 評議員会で、大山町と北海道倶知安町が同時立候補。

7. 14 SAJ より伊黒氏来山し 70m 級ジャンプ台建設視察。

11. 7 第25回国体開催申請書をSAJに提出。

昭和43年

※ 県連に学校部を設置。西鉄スキー教室を開催。

1. 16 県議会で、第25回国体誘致を決議。
1. 18 文部省、日本体育協会へ国体開催申請書提出。
1. 22 高松宮殿下、鏡ヶ成にお成り。日野郡スキー大会の開会式にご臨席。
1. 23 第41回全日本学生選手権大会（花沢山）2部 滑降1位 大杖正彦（慶大）
2. 17 第23回国体（八方） 大回転 成年1位 大杖正彦（慶大）
2. 19 日体協の国体委員会で第25回国体は倶知安町に決定。
※ 2月 第10回オリンピック（グルノーブル）に切り一、三冠王となる。
3. 8 第46回全日本選手権大会（苗場）滑降1位 大杖正彦 滑降・大回転1位 大杖美保子
3. 28 第26回国体開催申請書提出、同時に秋田県田沢湖も申請。
6. 16 役員改選 副会長 佐野勇一 渡瀬辰夫 安田光昭 理事長 廣江 弌
8. 10 豪円山70m級ジャンプ台、建設着工。
8. 26 県連、国体委員会設置。
9. 1 SAJ 中川会長、村本常任理事、国体開催地視察に来山。
11. 14 国体開催について、SAJ 野崎理事長、秋田県会長、織田会長との3者会談を行う。
11. 23 SAJ 評議員会で第26回国体は田沢湖に決定。同時に第27回国体は大山に同時内定。

昭和44年

2. 27 日体協の国体委員会で田沢湖、大山両国体、同時決定。
4. 26 鳥取県国体準備委員会設置。
5. 27 第1回国体準備委員会開催。
9. 28 伊黒氏、ジャンプ台工事検査に来山。
9. 30 豪円山70m級ジャンプ台完成。総工費3,300万円。
11. 15 競技役員講習会開催。（米子スポーツハウス）講師 SAJ 片桐匡 宮尾辰男

昭和45年

1. 17 第43回全日本学生選手権大会 1部 滑降3位 大杖二郎（日大）2部 滑降3位 小山起広（京外大）
 2. 1 豪円山70m級ジャンプ台竣工式及び記念ジャンプ大会開催。
全日本学生 桑原英雄、八木沼春義外10名招待
 2. 2 第19回全校高校（飯山市）
回転1位 松本真知子 9位 小椋保夫 大回転3位 松本真知子 8位 兜山功
 2. 19 第25回国体（倶知安・旭丘） 大回転7位 松本真知子（米北）壮年4位 椎木喜久男 16位宮本弘春
- 【3月 大阪万国博覧会開催】
4. 1 国体準備委員会事務局開設。事務局員2名を配置。 真田武 松本熙
 10. 21 国体準備委員会常任委員会開設。
 12. リフト増設 中の原 1基 新設 国際 3基 新設。
 12. 20 大山交際スキー場 オープン。

昭和46年

1. 19～24日 西日本総合スキー選手権大会兼第25回県体兼第26回国体予選会を大山で開催。国体のリハーサルとする。
1. 31 第20回全国高校（米沢市） 回転1位 松本真知子
2. 19 秋田県田沢湖国体へ視察員を31名派遣。
第9回世界スキー指導者会議を独ガルミッシュで開催。各国革新技術を発表。
アバルマン（仏）・OKテクニック（伊）・ベーレン（奥）・シュロイダー（西独）CDターン（日本）など
3. 11 第41回全関西西日本学生スキー大会を大山で開催。（～15日）
4. 1. 国体準備委員会を実行委員会に切り替え、事務局員を5名増員。
10. 4 県連、国体対策委員会設置。

昭和47年

1. 23 第26回大山ジャンプ大会を、吹き不足のため、県体・西日本と兼ねて開催。
県体兼国体予選は延期（23日→28日）。県体は、過去雪不足のため日程変更は有ったが、そっくり延期になったのは、県スキー史上初めてである。
高松宮殿下、第14回高松宮賜杯西日本スキー大会にご臨席。
ジャンプ台・チャンピオンコース視察。（23日～25日）
2. 15 雪不足のため、国体開催の可否について、日体協、文部省、SAJ、県国体実行委員会で協議、開催決定。
二の沢より、陸上自衛隊米子駐屯部隊のトラックで雪運搬開始。ジャンプ台・各コースに、雪の張り付け作業を行う。チャンピオンコースゴール付近は、張り付け作業がはかどらず断念。リーゼンコース1本に絞る。
2. 19 大会前日コース変更後、降雪有り。コース内の新雪を除去。

3. 20 新雪降りしきる中、第27回国体を大山で開催。
常陸宮・同妃殿下、開会式にご臨席。
高松宮殿下、大回転・リレー・ジャンプ競技をご観覧、開会式にもご臨席。
ジャンプ優勝 笠谷幸生 県勢 大回転 壮年2位 椎木喜久男 7位 宮本弘春
15km教員1部 9位 松本熙

※ 第11回冬季オリンピック札幌大会開催。 ジャンプ優勝 笠谷幸生

6. 18 役員改選 会長 織田 収 副会長 安田光昭 竹内恒次 兜山登 理事長 廣江式 外理事24名
【7. 22 境港大橋開通】

昭和48年

1. 17 第27回県体兼第28回国体選考会を氷ノ山スキー場で開催。
1. 25 第25回高松宮賜杯西日本スキー大会を雪不足のため、二の沢・三の沢で開催。高松宮殿下ご臨席。
3. 21 第1回西日本中学生記録会を大山で開催。 主管 鳥取・岡山
4月 県体協、60年国体誘致を決議。
5月 全日本スキー連盟財団法人となる。
【オイルショック～昭和49年にかけて物価高騰】

昭和49年

1. 23 第16回高松宮賜杯西日本スキー大会大山で開催。高松宮殿下、チャンピオンコースでの大回転、豪門山でのジャンプ競技をご観覧。
6. 役員改選 会長 織田 収 副会長 安田光昭 中尾喬一 兜山登 理事長 廣江式 外理事24名
12. リフト増設。上の原 1基
※ 日本スキー教程を発行

昭和50年

- 県連ジュニアスクール発足。(競技部主管)
2. 19 第30回国体(富良野)
大回転 少年 5位 山崎四郎 成年 2部2位 大杖正彦 4部4位 椎木喜久男
3. 7 第53回全日本選手権大会 滑降1位 松本真知子(専修大)
※ 「初級スキー教本」発刊

昭和51年

- 西鉄スキー教室廃止
1月 「51年豪雪」特に東部はひどかった。県下大雪のため交通マヒ。氷ノ山スキー場は通行不能。
2. 5 全国ろうあ者スキー大会を大山で開催。
2. 16 第31回国体(富山県大山町) 大回転成年3部 5位 田村勝義
5. 16 役員改選 会長 織田 収 副会長 安田光昭 中尾喬一 兜山登 理事長 廣江式 外理事24名
11. 指導員ユニホーム制定(グリーン基調 県色梨色)
12. リフト増設。上の原 1基 国際 3基

昭和52年

- 中の原にロマンスリフト架設
1. 19 第31回県体兼第32回国体選考会を江府町で開催。
アルペン 南大山スキー場 ノルディック 鏡ヶ成スキー場

昭和53年

5. 28 役員改選 名誉会長 織田 収
会長 兜山登 副会長 中尾喬一 廣江式 大館禅雄 理事長 真田 武 外理事24名
※ 夏、記録的な猛暑が続く。
11. 12 事務局をマルワスポーツ米子店内に変更。

昭和54年

1. 24 県、70m級ジャンプ台の取り壊しを決定。県連、反対表明をする。
※ 普及部を教育部と改称。「スキーと安全」改訂版発刊。
2. 24 雪不足のため、バジテストをリーゼンコース壁付近で行う。
2. 45 回大山国立公園記念スキー大会中止。
5. 21 県連創立50周年記念事業準備委員会開催。
9. 20 ジャンプ台(30m・50m級)設計のため、全日本より伊黒氏、現地視察のため来山。
9. 29 県連ユニホーム制定 紺基調県色梨色

昭和55年

1. 28 第22回高松宮賜杯西日本スキー大会を大山で開催。主管 岡山・四国各県

高松宮殿下、ご臨席のためご来山。

2. 16 「大山雪と氷祭り」開催。

2. 23 第1回中国中学生スキー大会を大山で開催。 主管 岡山 西日本中学生記録会を兼ねる。

2月 蔵王で第11回インターシーを開催。

3. 9 第50回全関西西日本学生スキー大会（50周年記念大会）を大山で開催。

高松宮殿下、ご臨席のためご来山。

5. 18 役員改選 会長 廣江弼 副会長 中尾喬一 大館禪雄 東平八郎 理事長 真田 武 外理事24名

※ 8月記録的な冷夏

10. 10 鳥取県スキー連盟創立50周年記念式典を挙行。米子国際ホテル「創立50周年記念誌」発行

昭和56年

県ジュニアスキー教室発足（教育部主管）

56年豪雪。ドカ雪後遺症続く。

1. 31 第17回高松宮賜杯鳥取県スキー連盟創立50周年記念大山アルペンスキー大会開催。

第36回国民体育大会 新潟県妙高高原

成年女子2部 大回転 5位 松本真知子 大山スキークラブ

成年男子3部 クラシカル 7位 松本熙 白樺クラブ

※ 全国的なスキー場建設ブーム起こる。

※ 6月東北新幹線開通

昭和57年

第37回国民体育大会 田沢湖 2月18日～21日

成年男子2部 クラシカル 9位 宮本孝志 大山スキークラブ

成年男子3部 クラシカル 5位 松本熙 白樺クラブ

3月18日～21日 成年男子3部15kmクラシカル 5位 松本熙

12月5日 日野郡江府町 奥大山スキー場開業

「スキー指導教本」発刊・技術検定かいと英・テクニカル・クラウンプライズ制定

※ 境港に35年ぶり、マグロの大漁。

6月 役員改選 会長 廣江弼 副会長 中尾喬一 大館禪雄 東平八郎 理事長 真田 武 外理事24名

昭和58年

第38回国民体育大会 群馬県草津町 2月22日～25日

成年女子1部 大回転6位 森和美 専修大学

成年男子3部 クラシカル 10位 二宮秀幸 陸上自衛隊米子

国際スキー場にスノーガン設置

7月基礎スキー指導員規定並びに検定規定、全面改定。

11月 溝口町、県よりスノーローダーを譲り受ける。

昭和59年

第39回国民体育大会 山形県蔵王町 2月23日～26日

成年女子1部 大回転6位 森和美 専修大学

成年男子2部 クラシカル 9位 宮本孝志 大山スキークラブ

成年男子3部 クラシカル 10位 二宮秀幸 陸上自衛隊米子

59年豪雪 除雪費大ピンチ

※ 夏降雨2日のみ・ジュニアテスト制定

昭和60年

第40回国民体育大会 群馬県片品村 2月20日～23日

成年男子2部 クラシカル 9位 宮本孝志 大山スキークラブ

成年男子3部 クラシカル 10位 二宮秀幸 陸上自衛隊米子

公認検定員制度制定・わかとり国体開催

昭和61年

日野郡日南町花見山にグラススキー場オープン

スキー教程かいと英 ヴァリアブル・スキーイング

1. 22 県連表彰式開催 大観荘 功労役員 優秀選手多数

【ソ連 チェルノブイリ原発事故発生】

8. 13 大山国立公園指定50周年記念式典開催

【12. 13 強風のため余部鉄橋より回送列車落下】

昭和62年

第24回全国中学生スキー大会 山形県蔵王スキー場

男子 回転6位 大回転7位 山崎一孝 大山中学

2月18日～22日 第42回国民体育大会 長野県白馬村

成年男子2部15km クラシカル 8位 宮本孝志 大山スキークラブ

9. 6 スポーツ功労事業開催 講師 笠谷幸生 会場 米子住吉公民館

11. 29 国際スキー場 スキー場開き 西日本トップ

12. 19 中の原スキーセンター、オーオウン。県連現地事務所上の原より移転。

12. 県連ユニホーム制定

12. 豪円山ロッジ移転改築。緩斜面リフトを1本で通しにする。

12. 氷ノ山スキー場、町営ゲレンデ新設。現樹氷スノーピア

昭和63年

第43回国民体育大会 岩手県八代町

成年男子B1部 15km クラシカル 5位 宮本孝志 大山スキークラブ

氷ノ山スキー場新ゲレンデ開業 全長2000m

1. 県連、ジュニア保護者教室発足。

1. 28 若桜氷ノ山・樹氷祭り開催。ヘリスキー、大人気。

2. 第37回全国高校 回転5位 山崎一孝（米子北1年）

2. 3 第25回全国中学生スキー大会を大山で開催。

強風のためアルペン種目コース短縮で約20秒の大会となる。

2. 29 スノーボード1級合格・県内第1号 中垣広之（岩美町）

12. リフト新設 上の原三角 1基

平成元年（昭和64年）

1. 昭和天皇崩御。年号が平成となる。

1. 8 全日本指導員会雪不足のため実技できず。室内研修2日間で終わる。

2. 3 第1回SAJ B級公認 ‘89JR西日本CUP’を大山で開催。

男子2位 椎木 稔 3位 山崎一孝 女子2位 田中三奈子 3位 山崎満朱子

2. 8 第26回全国中学（富山・大山町） 大回転8位 山崎満朱子 大山中学

2. 10 第38回全国高校（青森・大鰐） 回転10位 山崎一孝（米子北2年）

2. 西日本技術選手権大会芸北会場が雪不足のため札幌国際に変更開催。

2. 全日本指導員検定会奥神鍋会場が雪不足のため鉢伏スキー場に変更開催。

※ 「競技スキー教程」発刊

※ 4年続きの暖冬 各種大会・講習会の延期・中止多発

7. 26 第3回野沢ジャンプ大会に県連より3名派遣

【6月3日 天安門事件起こる。民主化の嵐、ベルリンの壁崩壊、】

【9月1日 ボートピープル 境港に中国・ベトナムの難民船入港】

【10月 ルーマニア政変起こる】

【11月 ハーグ国際会議 温暖化対策】

平成2年（1990年）

2. 24 県体育功労賞受賞 石長正吾 教育部長

2. 25 全日本指導員検定会大山会場が雪不足のため、パラダイス・リーゼンコースに雪の張り付けを行い検定会を実施。

※ 2月より全国的な雪不足と成った。

※ 6. 24 「やはり地球は温暖化」百年の観測地で確認。（百年で0.5度上昇）気象庁

7. 11 平成5年第48回国体冬季大会スキー競技会の大山開催が正式決定。

10. 7 鳥取県スキー連盟創立60周年記念式典挙行政。記念誌発行

平成3年（1991年）

2月17日～20日 第46回国民体育大会 新潟県塩沢町・六日町

成年男子1部C クラシカル 3位 宮本孝志・中電工米子

成年男子2部 クラシカル 8位 伊藤富士雄・陸上自衛隊米子

平成4年（1992年）

2月4日～8日 第41回全国高等学校スキー選手権大会 鳥取県大山町で開催

2月28日～3月2日 第47回国民体育大会 山形県山形市蔵王町

成年男子1部C クラシカル 8位 川端義治・陸上自衛隊米子

平成5年（1993年）

2月16日～19日 第48回国民体育大会 鳥取県大山町で開催

成年男子1部B クラシカル 9位 石津満・陸上自衛隊米子

成年男子1部C クラシカル 3位 宮本孝志・中電工米子

成年女子2部 クラシカル 5位 小松千代子・陸上自衛隊米子

少年男子 クラシカル 9位 伊藤崇智・米子工業高

成年男子リレー 5位 清水博樹・宮脇宏和・岩波孝弘・石津満・柴崎剛吉

春一番が吹き荒れコース整備が大変だったが役員の懸命の努力により無事大会を終えた。

純ジャンプ少年男子で惜しくも入賞を逃したが、瀬田匡志（根雨高校）が10位と成った。

平成6年（1994年）

2月15日～18日 第49回国民体育大会冬季大会 宮城県鳴子町

成年男子2部 6位 中村健二 陸上自衛隊米子

平成7年（1995年）

2月19日～22日 第50回国民体育大会冬季大会 福島県猪苗代町

※11月阪神大震災死者5,000人以上に

平成8年（1996年）

第32回高松宮杯大山アルペンスキー大会を全日本B級公認大会として初開催。

種目を大回転と回転に変更し開催した。

2月20日～23日 第51回国民体育大会冬季大会（岐阜県大野郡朝日村）

成年男子Bクラシカル 9位 宮脇宏和 大山中教員

成年男子Cクラシカル 優勝 宮本孝志・中電工米子

平成9年（1997年）

2月20日～23日 第52回国民体育大会冬季大会（秋田県鹿角市）

成年男子Bクラシカル 8位 宮脇宏和 大山中教員

成年男子Cクラシカル 2位 宮本孝志・中電工米子

※7月バルセロナオリンピックで鳥取県の森下、山下、西本の3選手大活躍（～8月）

※7月米子自動車道全線開通

平成10年（1998年）

第53回国民体育大会 岩手県八代町

成年男子C 10km クラシカル 7位 宮本孝志 大山スキークラブ

3月4日～6日 98‘全日本スキーマスターズ 鳥取県大山町で開催

2月長野冬季オリンピック開催

平成11年（1999年）

第54回国民体育大会 北海道小樽

成年男子C 10km クラシカル 4位 宮本孝志 大山スキークラブ

3月9日～11日 第1回 全日本B級公認 大山上の原ジュニアスラローム大会開催

※2000年コンピューター問題発生で混乱したが大きな問題は無かった。

平成12年（2000年）

第55回国民体育大会 2月18日～21日 富山県極楽坂スキー場

成年女子B 大回転 6位 山崎満朱子 ベルグホフチロル

成年男子C 10キロ（クラシカル）4位 宮本孝志・中電工米子

成年男子B 15キロ（クラシカル）10位 宮脇宏和・若桜中教

※ 鳥取県西部地震は、10月6日13時30分18秒、鳥取県西部を震源として発生。

※シドニーオリンピック女子マラソンで高橋尚子が日本女子陸上初の金メダル

平成13年（2001年）

第56回国民体育大会 2月19日～21日 長野県飯山

成年男子C 5km クラシカル 8位 宮本孝志 大山スキークラブ

成年女子B 大回転 3位 尾関絵美 花見山SC

平成14年（2002年）

第57回国民体育大会新潟県妙高高原町

平成15年第（2003年）

58回国民体育大会北海道名寄市

平成16年（2004年）

第59回国民体育大会山形県山形市

平成17年（2005年）

第60回国民体育大会 岩手県八代町

成年男子C 5km クラシカル 6位 宮脇 宏和 フロンティアSC

平成18年(2006年)

1/17~19 高松宮杯大山アルペンスキー大会をFIS公認で開催 FIS サンミリオンカップとなる。

第61回国民体育大会 群馬県片品村

成年男子C 5km クラシカル 6位 宮脇 宏和 フロンティアSC

成年男子B コンバインド 8位 岩井 良 奥大山スキークラブ

※ 10月第19回全国スポーツ・レクリエーション祭スポレク鳥取2006開催

※ トリノ冬季オリンピック女子フィギュアで荒川静香が金メダル

平成19年(2007年)

第62回国民体育大会 秋田県田沢湖

成年男子C 2/12 大回転 7位 山崎 一孝 クルーズ

成年男子C 5km クラシカル 4位 宮脇 宏和 フロンティアSC

※10月和牛博覧会 in とっとり~第9回全国和牛能力共進会開催(大山町)

平成20年(2008年)

第63回国民体育大会 野沢温泉 2月19日~22日

成年男子C 大回転 4位 山崎 一孝 クルーズ

成年男子C 5km クラシカル 5位 宮脇 宏和 フロンティアSC

TOS クロスカン トリー選手権大会(鳥取・岡山・島根県3県合同国体選考会)を全日本B級公認大会として開催。

TOS アルペンスキー選手権大会(鳥取・岡山・島根県3県合同国体選考会)を全日本B級公認大会として開催

フィッシャー杯第26回大山クロスカン トリー選手権大会を全日本B級公認大会として開催。

平成21年(2009年)

1月 TOSY クロスカン トリー選手権大会(鳥取・岡山・島根・山口県4県合同国体選考会)開催。

1月 TOSY アルペンスキー選手権大会(鳥取・岡山・島根・山口県4県合同国体選考会)開催。

1月 第1回西日本小学生大会開催。大回転・距離フリー。アルペンチルドレン大会開催。

2月 第64回国民体育大会冬季大会スキー競技会 新潟県南魚沼市

※ 6月環日本海国際定期貨客船航路が正式に就航

※ 鳥取自動車道智頭IC~河原IC間が開通

平成22年(2010年)

第65回国民体育大会冬季大会スキー競技会 北海道札幌市

TOSY 選手権大会(鳥取・岡山・島根・山口県4県合同国体選考会)を全日本B級公認大会として開催

11月鳥取県スキー連盟創立80周年記念式典挙。記念誌発行。

※ 08月11日国立公園大山の4スキー場のうち「大山国際」「豪円山」「上の原」の3スキー場の運営が今冬のシーズンから統合されることに関連し、残る「中の原」を直営する大山町の臨時議会が10日開かれ、同スキー場の管理・運営を指定管理者に委ねることができる条例改正案が可決された。

※ 経営環境が厳しさを増す中、4スキー場の統合へ

平成23年(2011年)

大晦日から元日にかけてに記録的な大雪となり、米子でも90cmの積雪があり交通は麻痺し、スキー場はスキーヤーの姿が消えた。

SAJ 公認大会にチルドレンのカテゴリーが加わり K1・K2 の2クラスが新設され15歳以上が旧 SAJ-B 級大会となる。

1月 TOSY 選手権に於いて K1・K2 の2クラスが新設

高松宮杯 FIS サンミリオンカップにも K1・K2 の2クラスが新設

2月 国体において宮脇和宏選手八東中教員が成年C組クラシカル5kにおいて6位入賞

3月 高松宮杯西日本アルペンスキー選手権大会にも K1・K2 の2クラスが新設

大山カップにも K1・K2 の2クラスが新設

平成24年(2012年)

1月 23日 GSL 24日 SL 高松宮杯西日本アルペンスキー選手権大会をFIS公認レースとして開催

国体において宮脇和宏選手八東中教員が成年C組クラシカル5kにおいて8位入賞

3月 17/18日氷ノ山アルペンスキー大会がSAJ-B級公認大会として開催し K1・K2 の2クラスも併せて開催された。
25日大山カップ開催

平成25年(2013年)

5月 全日本スキー連盟が公益財団法人と認定

11月 温泉施設「豪円湯院」オープン

上の原スキー場下部リフト延長となり乗り継ぎが便利になった。

平成 26 年 (2014 年)

2 月 第 69 回国民体育大会冬季大会スキー競技会 蔵王スキー場

大回転 成年男子 A 大藤翔太 鳥取城北→近畿大学 第 2 位



アルペン表彰台は 13 年ぶり男子アルペンは 6 年ぶりの入賞

成年男子 B 糸乗克 鳥取城北教員 第 13 位ながら第 1 シードを得た。

成年女子 A の下村彩恵 法政大 62 番スタートから 33 位と健闘

クロスカントリー 成年女子 B 山形陽子 (株)オロチ 第 12 位と健闘

女子リレー第 12 位と健闘

第 1 走 佐伯美幸 日野高校 第 2 走 遠藤花奈 米子東高校

第 3 走 山形陽子 (株)オロチ第 4 走 浅田彩絵 米子北高校

11 月 だいせんホワイトリゾート中の原上部に人工降雪機設置

平成 27 年 (2015 年)

2 月 第 70 回国民体育大会冬季大会スキー競技会

大回転 成年男子 A 大藤翔太 鳥取城北→近畿大学 第 4 位

平成 28 年 (2016 年)

記録的な降雪のない中で国体選考会では中ノ原で短いコースであったが 3 県で開催した。

2 月 22 日岩手国体 成年男子 C 糸乗克 鳥取城北教員 第 5 位入賞

11 月国際から上ノ原へ滑走して帰るコースが完成。

平成 29 年 (2017 年)

1 月上旬まで降雪が少なく滑走が出来なかった。

第 72 回長野国体 成年男子 C 糸乗克 鳥取城北教員 第 1 2 位と健闘した。

12 月大山スキー場の国際ゲレンデのリフトがリニューアルし 4 号リフトがパラダイスからの乗車に変更。

また、7 号 8 号が撤去された。

平成 30 年 (2018 年)

国体選考会が鳥取・岡山・福岡県合同で開催

岩手国体 成年男子 C 糸乗克 鳥取城北教員 第 1 2 位と健闘した。

12 月のスキー場開きより大山スキー場でカード改札始まる。

平成 31 年 (2019 年)

暖冬で積雪は少なかったが高松宮杯第 55 回 大山アルペンスキー大会 FIS 2019 だいせんホワイトリゾートカップ 兼 2019 TOF アルペンスキー選手権大会及び TOF クロスカントリースキー選手権大会兼第 74 回国民体育大会冬季大会スキー競技会鳥取県選考会が無事開催できた。

1 月 SAJ スキー大学開催 氷ノ山スキー場で中国中学高校選手権大会が岡山県主催で開催された。

札幌国体鳥取県選手団の主な記録

2/15

クロスカントリー 5km クラシカル 成年男子 C 組 川端大輔 健闘し 21 位 岩波昭宏 25 位

10km クラシカル 成年男子 A 組 河本龍 日本体育大学 35 位

2/16

クロスカントリー 少年女子リレー 健闘 16 位

2/17

クロスカントリー 成年男子リレー 健闘 17 位

令和 2 年 (2020 年)

暖冬の影響で軒並み大会がキャンセル。大山リーゼン・大山クロス・中高総体がキャンセル。

高松宮杯第 56 回 大山アルペンスキー大会 FIS 2020 だいせんホワイトリゾートカップ

兼 2020 TOF アルペンスキー選手権大会及び TOF クロスカントリースキー選手権大会

兼第 75 回国民体育大会冬季大会スキー競技会鳥取県選考会と西日本小学生スキー大会は積雪不足により

キャンセルとなった。1月15日の積雪は連盟事務所で20cmとこの時期としては極端に少なかった。氷ノ山で開催予定のスキー大学・氷ノ山スキー大会。氷ノ山スラロームも積雪不足でキャンセルとなった。2月6日野沢温泉で開催の全国中学生スキー大会で大山中3年椎木基覚が**3位入賞**した。



日本海新聞抜粋



堤 春彩
鳥取大
学職員
が大回
転成年
女子2
部で
4位入賞

富山県南砺市たいらスキー場で開催された国民体育大会記録

2月17日 田邊謙介 日本大学が大回転成年男子Aで健闘し31位

安田直也 米子信用金庫が大回転成年男子Bで健闘し39位

2月18日 堤春彩 鳥取大学職員が大回転成年女子2部で**4位入賞**

川端大介 陸上自衛隊米子駐屯がクラシカル成年男子Cで健闘し19位

糸乗克 鳥取城北高等学校(教員)が大回転成年男子Aで健闘し16位

熊本心優 鳥取城北高等学校が大回転少年女子で健闘し25位

2月19日 リレー成年男子が岡山・広島を制し14位と健闘

1走:河本 龍 2走:森岡 岳 3走:飯島 義仁 4走:川端大介

3月に入り積雪も少なくなり全ての行事が中止となった。

折からの中国武漢で発生した新型コロナウイルス対応のため全日本技術戦や全ての公認行事大会がキャンセルとなった。

10月 **令和2年度鳥取県スポーツ協会優良団体を受賞**

11月 コロナの影響

だいせんホワイトリゾートの営業リフト縮小発表。

杵水スキー場・花見山スキー場が営業中止。奥大山スキー場は再開できず。

令和3年(2021年)

年末からの大雪で久しぶりに150cm以上の降雪が有り、殆どの行事が順調に開催されたがコロナの影響で全中・国体・スキー大学(氷ノ山会場)が中止となった。

インターハイの成績

2月6日 大回転女子 熊本心優 鳥取城北高校2年 16位 内田南海 米子北高校1年 90位

2月7日 XC女子フリー5km 内田恵 米子西高校2年 85位 柴田舞花 米子工業高校 93位

XC男子フリー10km 河本海 米子北高校 114位 河本仁 米子北高校 118位、

2月8日 XC女子クラシカル 5km 柴田舞花 米子工業高校 91位 内田恵 米子西高校2年 92位

XC男子クラシカル 10km 河本仁 米子北高校 108位、河本海 米子北高校 109位

大回転男子 芦澤海李 鳥取城北高校 2年 24位 椎木基覚 米子北高校1年 47位

2月9日 回転女子 熊本心優 鳥取城北高校2年 22位 内田南海 米子北高校1年 89位

2月10日 回転男子 加藤 怜 鳥取 米子北高等学校 1年 80位

3月6日 7日開催の高松宮杯西日本アルペン選手権は初日霧のためキャンセルとなったが7日は好天に恵まれ無事開催できた。

3月10日 全国高校選抜

熊本心優 鳥取城北高校 SG女子2位 芦澤海李 鳥取城北高校 SG男子17位

3月11日 芦澤海李 鳥取城北高校 GS男子10位 熊本心優 鳥取城北高校 GS女子12位



3月21日 2022全日本ジュニアスキー選手権大会 スノーボード競技

中高校生男子SL8位 松本 樹 旗人

9月20日 令和3年度 生涯スポーツ優良団体文部科学大臣表彰受賞 本スキー連盟

令和4年(2022年)

コロナの感染爆発により国体選考会も心配されたがPCR検査を選手役員ともに受け、陰性者のみが参加し、完成防止対策を合わせてとることで開催することが出来た。

秋田鹿角国体

2022年2月19日

成年男子Cクラシカル走法5km 7位入賞三好 孝文陸上自衛隊米子

2月23日 2022全日本ジュニアスキー選手権大会 スノーボード競技 阿寒湖スキー場

松本 樹 旗人スノーボードクラブ PGS男子 4位

教育部

スキー場開きから積雪に恵まれたが、1月4日から鳥取県にも新型コロナオミクロン株の感染者が増え、1月6日に鳥取県西部地区に警報発令が出たため、指導者研修会126名申し込みのうち欠席者が若干出たがSAJの通達により出席扱いとし滞りなく行った。

ジュニア教室は鳥取県西部地区に特別警報が出たことにより、1月23日から2月13日迄を一時休止として、2月20日から再開して土曜日を使って3月13日まで延期し実施した。

大山会場のバッジテストは受検者がなく、C級検定員検定は2名の受検があったため役員が実技の演技を行い何とか検定は行うことができた。来シーズンはスキースクールでの実技検定を行うことも考えなければならない。

久しぶりに西日本スキー技術選手権が大山で行われた。西日本スキー技術選手権は雪不足のため2年連続中止となっており、3年ぶりの技術選手権だった。

選手エントリーは男子72人(59人参加) 女子17人(15人参加)となり、コロナのために欠席者もあった。

鳥取県選手は男子坂本健吾が13位、女子田代千尋が6位に入った。

準指導員検定会は島根県と合同で開催していたが、島根県に新型コロナ蔓延防止重点措置が出たため合同で開催は断念して鳥取県単独で行った。

受検者はスキー4名で全員合格、ボードは2名申し込みがあったが、1名はコロナの関係で受検できず1名受検1名合格であった。

スキー4名の合格者のうち、1名は強化選手で今後の活躍に期待する。

指導員検定会は奥神鍋スキー場で行われ、鳥取県からは1名受検であったが、残念ながら合格には至らなかった。

全日本スキー技術選手権大会は八方で行われ、男子5名、女子2名が参加した。

予選は男子261人中175位(坂本健吾) 女子129人中106位(田代千尋)

令和 5 年（2023 年）

コロナ過ではあったが選手役員の厳格な管理の下、事業は予定通り開催できた。

2022/2023 2/17-2/20

特別国民体育大会冬季大会スキー競技会 鳥取県選手の記録

クロスカントリー 成年男子 C

2 月 19 日

14 位 三好 孝文 陸上自衛隊米子駐屯地 25 位 川端 大介 陸上自衛隊米子駐屯地

入賞まであと一歩であった。

■第 60 回全日本スキー技術選手権大会 2023 年 3 月 9 日～12 日 長野県 白馬八方尾根スキー場

男子予選 坂本健吾 183 位 有田秀章 260 位 岸田 諒 266 位 古川雄一 268 位

女子予選 田代千尋 121 位

6 月に新型コロナが 5 類となり通常の生活に戻った。

酷暑のため降水が極端になく、カメムシの被害により全国の米等級が下がり収穫も大きく落ち込んだ。

令和 6 年（2024 年）

暖冬により初開催の高松宮杯西日本クロスカントリー選手権大会は積雪不足により中止となった。

中高総体アルペンは中の原 1 号リフト沿いの標高差 30m で GS・SL 供 1 本レースで 1 日で行った。午後 3:30 から準備で競技を行い 17:00 で終了。クロスカントリーは国際スキー場の道路で周回コースを設定し何とか開催した。

1 月 14 日になり中の原 3 号リフトが運転開始となった。

T0 クロスカントリー選手権大会・高松宮杯大山アルペンスキー選手権大会・西日本小学生大会は積雪不足により中止となった。

国体選考会は、アルペンが中の原の N3 号リフト沿いスタート N1 号中間地点ゴールで開催した。

クロスカントリーはコースが使えないため国際スキー場に特設コースを設定し開催した。

中国中学高校生大会は雪不足で中止となった。

西日本スノーボード選手権も積雪が無く中止となった。

大会名称変更で第 78 回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会として開催されたがアルペン会場に雪がなくダンプトラックで雪を運搬しコースを作ったがアルペンは標高差 100m で開催された。クロスは通常通り開催できた。

記録は下記の通り

クロスカントリー

少年女子 5km クラシカル 44 位 浅田 純伶 米子北高校

少年男子 10km クラシカル 82 位 沼田 紅葉 米子工業高等学校

成年女子 A 5km クラシカル 43 位 柴田 舞花 奥大山スキークラブ

成年男子 A10km クラシカル 41 位 河本 仁 京産産業大学 45 位 河本 海 京都産業大学

67 位 湯栗 康平 陸上自衛隊米子駐屯地

成年男子 B10km クラシカル 26 位 岡田 勇飛 陸上自衛隊米子駐屯地

成年男子 C 5km クラシカル 14 位 三好 孝文 陸上自衛隊米子駐屯地 28 位 川端 大介 陸上自衛隊米子駐屯地

アルペン

少年女子 51 位 伊澤想良 米子東高校 67 位 中田花菜 米子東高校

86 位 椎木隠晶 米子南高校

少年男子 39 位 片山 航大 鳥取城北高校 43 位 水口 京汰 鳥取城北高校

75 位 井上 暖 鳥取城北高校 96 位 本家 広大 鳥取城北高校

117 位 内田 葵 米子北高校 140 位 森岡 岳大 若桜学園中学校

成年男子 B 25 位 小谷 峻慈 小竹林業株式会社

成年男子 C 25 位 安田直也 米子信用金庫西支店 59 位 川上拓磨 中国銀行

高松宮杯西日本アルペンスキー選手権大会は積雪が少なく GS(YU 除く)は SL に変更して開催した。

SAJ アルペン強化指定選手に伊澤 星良（大山中）が選ばれた。

教育本部

今年度の指導員受験者は、スキー指導員 1 名、スキー準指導員 1 名、スノーボード準指導員 1 名の受検者があり、スキー準指導員 1 名、スノーボード準指導員 1 名が合格しました。

技術選手権は、鳥取県スキー技術選手権大会及びスノーボード技術選手権大会とも雪不足で中止になりました。

第 61 回全日本スキー技術選手権大会は 3 月 6 日～10 日に北海道ルスツリゾートであり、男子 5 名が参加し、予選順位は坂本健吾 229 位、平岡民好 256 位、岸田 諒 274 位、有田秀章 281 位でした。

第 21 回全日本スノーボード技術選手権大会は 2 月 29 日～3 月 3 日に群馬県尾瀬戸倉スキー場であり、男子 2 名が出場し、井上一輝が予選順位 94 位で決勝進出、決勝では 100 位でした。井上裕貴は予選順位 126 位でした。

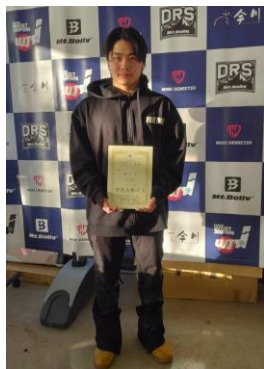
石破茂氏が鳥取県初の首相誕生。赤沢氏も大臣となった。

令和7年（2025年）

1月13日高松宮杯西日本クロスカントリー選手権大会が大山で初開催された。昨年は雪不足で開催できなかった。

1月17日アルペン国スポ選考会 1月18日クロスカントリー国スポ選考会がSAJ公認コースで開催された

1月18日19日高松宮杯大山アルペン・T0クロスカントリー選手権・西日本小学生大会が予定通り開催された



1月27日開催の西日本スノーボードアルペン選手権大会中高生の部に於いて優勝した旗人スノーボードクラブ 松本樹 N 高校3年生が世界ジュニアスノーボードアルペン選手権の出場権を獲得。世界選手権の締め切りの都合でSAJが西日本スノーボードアルペン選手権を世界ジュニア選考会に指定したため。

2月23日2025全日本ジュニアスキー選手権アルペン競技SG 10位 伊澤想良 米子東高校3年

2月26日2025全日本ジュニアスキー選手権スノーボード競技 6位 松本樹 N 高校3年生

3月26日JOCジュニアオリンピック2025全日本ジュニアスキー選手権K1SL 10位 勢来怜志 末恒小6年

3月1日2日 高松宮杯西日本アルペン選手権開催

3月7日8日 氷ノ山アルペ開催

2024-25年表 教育本部

今年度からスキー教程が変更になり、受検種目も変わったが、受検者はスキー指導員・準指導員が多く、スキー指導員8名・スキー準指導員4名・スノーボード準指導員1名・スキーパトロール1名・スキーB級検定員1名が受検した。

合格者は2月22日・23日にだいせんホワイトリゾート行われた検定会でスキー指導員4名合格。

2月22日・23日志賀高原・ノ瀬ダイヤモンドスキー場で行われたスキーパトロール検定会では1名合格。

2月15日・16日にだいせんホワイトリゾートで行われた検定会でスキー準指導員1名、スノーボード準指導員1名、B級検定員1名が合格した。

スノーボードの指導員・準指導員検定及びA級・B級検定については、鳥取県内のA級検定員が少なく検定ができないと判断し、島根県スキー連盟に養成講習会及び検定会を委託して実施した。来年度も島根県スキー連盟に委託することになるので、鳥取県スキー連盟のスノーボード指導員及びA級検定員、さらにはスノーボード技術員の養成が急務である。

2月1日、ホワイトリゾートで行われた西日本スキー技術選手権は、女子は渡邊夏香が11位、男子は坂本健吾の13位が最高位という結果だった。

3月4日から北海道ルスツリゾートで行われた全日本スキー技術選手権には女子2名、男子4名が参加したが、最高順位は女子の林陽菜乃が141位、男子は坂本健吾の217位で、予選落ちした。

スノーボード技術選手権では、強化選手の井上一輝が、1月13日にホワイトリゾートで行われた鳥取県技選では1位、1月25日にめがひらスキー場で行われた西日本技選では12位、2月27日から鹿沢スノーエリアで行われた全日本スノーボード技術選手権では170位で予選落ちとなった。

ジュニア教室では、今年度から東部地区ジュニア教室が氷ノ山スキー場で開催された。

参加状況は、西部地区ではジュニア37名、保護者10名。東部地区ではジュニア9名、保護者1名であり、西部地区・東部地区ともより一層の参加者の増大が望まれる。

11月25日 森岡靖彦競技本部長が日本スポーツ協会から国民スポーツ大会30年出場で表彰を受けた。

